

平成21年4月30日公表

## 平成20年九州の海面漁業・養殖業生産量（概数）

－海面漁業・養殖業生産量は、前年に比べて3万1,500t（3%）減少－

### 【調査結果の概要】

- 1 平成20年（1月～12月）の九州における海面漁業・養殖業の生産量は92万7,000 tで、前年に比べて3万1,500 t（3%）減少しました。

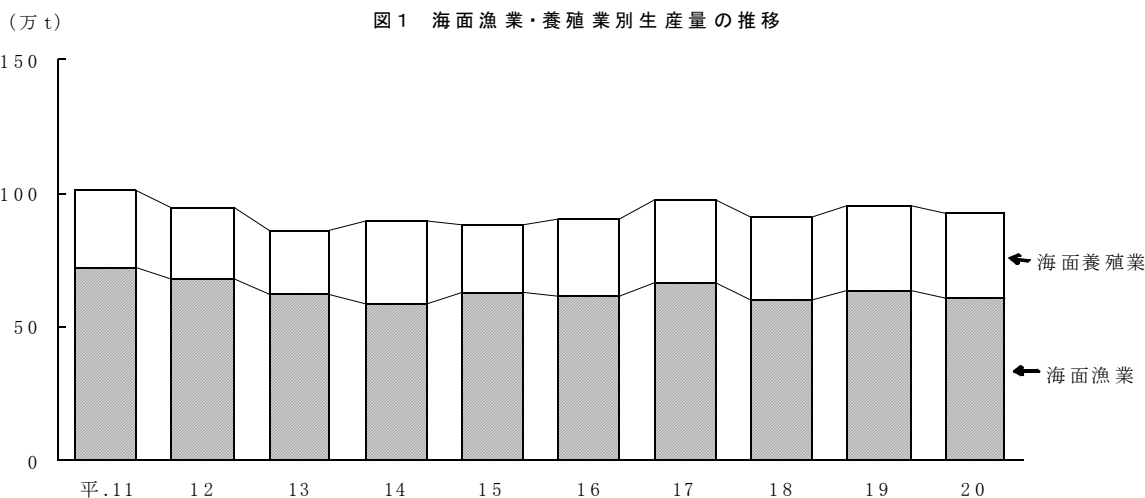
これは海面養殖業の収穫量は増加したものの、海面漁業の漁獲量が減少したためです。

なお、生産量に占める海面漁業漁獲量の割合は65%となりました。

- 2 海面漁業の漁獲量は60万3,800 tで、前年に比べて3万4,200 t（5%）減少しました。

これは、あじ類、かつお類等は増加したものの、いわし類、さば類等が減少したためです。

- 3 海面養殖業の収穫量は32万3,200 tで、前年に比べて2,700 t（1%）増加しました。これは、のり類等が増加したためです。



この統計調査結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。

【[http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/ht\\_suisan\\_kyushu.html](http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/ht_suisan_kyushu.html)】

本統計における調査の目的、調査の対象などは、[調査の仕様] P 7に掲載しております。

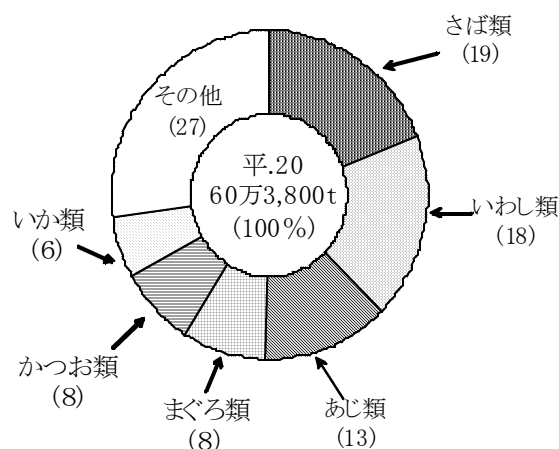
## 【解説】

### 1 海面漁業漁獲量

平成20年の九州における海面漁業の漁獲量は60万3,800tで、前年に比べて3万4,200t（5%）減少しました。

漁獲量に占める魚種別の構成割合は、さば類が19%で最も高く、次いでいわし類が18%、あじ類が13%、まぐろ類、かつお類が8%、いか類が6%となっています。

図2 魚種別漁獲量の構成割合



#### ア さば類

さば類の漁獲量は11万6,500tで、前年に比べて1万400t（8%）減少しました。

これは、大中型1そうまき網等で減少したためです。

#### イ いわし類

いわし類の漁獲量は11万500tで、前年に比べて2万2,900t（17%）減少しました。

これは、うるめいわし、まいわし等が減少したためです。

#### ウ あじ類

あじ類の漁獲量は7万7,800tで、前年に比べて1万6,700t（27%）増加しました。

これは、まあじ、むろあじ類が増加したためです。

#### エ まぐろ類

まぐろ類の漁獲量は5万1,100tで、前年に比べて9,900t（16%）減少しました。

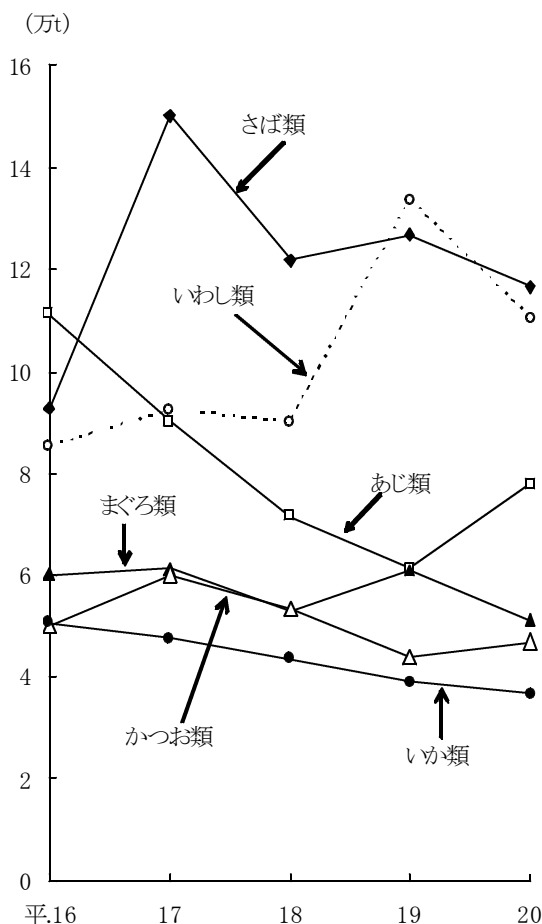
これは、びんなが、きはだ等が減少したためです。

#### オ かつお類

かつお類の漁獲量は4万6,900tで、前年に比べて2,900t（7%）増加しました。

これは、かつお、そうだかつお類が増加したためです。

図3 主な魚種別漁獲量の推移



## カ いか類

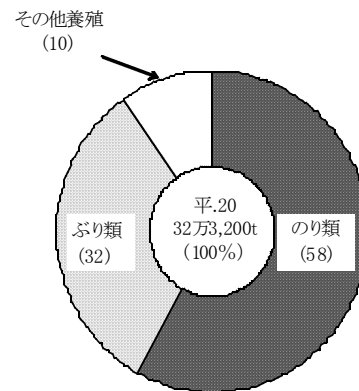
いか類の漁獲量は3万6,800tで、前年に比べて2,200t(6%)減少しました。  
これは、あかいか等が減少したためです。

## 2 海面養殖業収獲量

平成20年の九州における海面養殖業の収獲量は32万3,200tで前年に比べて、2,700t(1%)増加しました。

収獲量に占める魚種別の構成割合は、  
のり類が58%で最も高く、次いでぶり類  
が32%となっています。

図4 養殖魚種別収獲量の構成割合



## ア のり類

のり類の収獲量は18万8,000tで、前年に比べて5,300t(3%)増加しました。

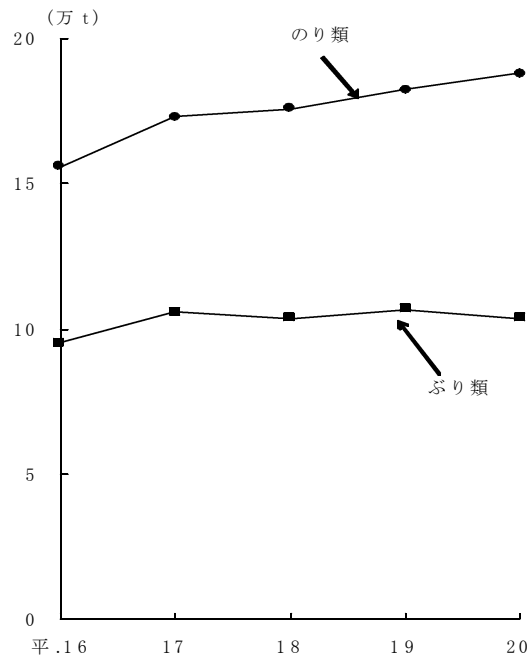
これは、気象・海況に恵まれたことや、病気の発生も少なく生育が順調に経過したためです。

## イ ぶり類

ぶり類の収獲量は10万3,800tで、前年に比べて3,000t(3%)減少しました。

これは、価格低迷による規模縮小等により減少したためです。

図5 主な養殖魚種別収獲量の推移



【統計表】

1 海面漁業・養殖業生産量総括表

単位：100t

年次	計	海面漁業	海面養殖業
平. 11	10 106 (100)	7 246 (72)	2 860 (28)
12	9 434 (100)	6 834 (72)	2 600 (28)
13	8 613 (100)	6 208 (72)	2 404 (28)
14	8 983 (100)	5 897 (66)	3 086 (34)
15	8 845 (100)	6 271 (71)	2 574 (29)
16	9 061 (100)	6 170 (68)	2 891 (32)
17	9 755 (100)	6 625 (68)	3 131 (32)
18	9 127 (100)	5 992 (66)	3 135 (34)
19	9 585 (100)	6 380 (67)	3 205 (33)
20	9 270 (100)	6 038 (65)	3 232 (35)
対前年差	△ 315	△ 342	27
対前年比(%)	97	95	101

注：( )書きの数値は構成割合(%)です。

2 海面漁業

(1) 主な漁業種類別漁獲量

単位：100t

漁業種類	平. 20	19	対前年差	対前年比(%)
計	6 038	6 380	△ 342	95
小型底びき網	133	172	△ 39	77
船びき網	275	323	△ 48	85
大中型1そうまき網	1 340	1 462	△ 122	92
中・小型まき網	1 765	1 821	△ 56	97
刺網	167	169	△ 2	99
定置網(大型・小型)	355	310	45	115
その他の網漁業	103	106	△ 3	97
まぐろはえ縄	368	431	△ 63	85
かつお一本釣(遠洋・沿岸)	141	161	△ 20	88
いか釣	243	275	△ 32	88
ひき縄釣	75	71	4	106
その他の釣	151	169	△ 18	89
採貝・採藻	216	189	27	114
上記以外の漁業	706	721	△ 15	98

## (2) 主な魚種別漁獲量

単位：100t

魚種	平. 20	19	対前年差	対前年比(%)
合計	6 038	6 380	△ 342	95
魚類計	5 291	5 594	△ 303	95
まぐろ類計	511	610	△ 99	84
かじき類計	31	36	△ 5	86
かつお類計	469	440	29	107
かつお	416	402	14	103
そうだかつお類	53	38	15	139
このしろ	38	42	△ 4	90
いわし類計	1 105	1 334	△ 229	83
まいわし	61	167	△ 106	37
うるめいわし	153	311	△ 158	49
かたくちいわし	772	707	65	109
しらす	120	149	△ 29	81
あじ類計	778	611	167	127
まあじ	618	514	104	120
むろあじ類	160	97	63	165
さば類	1 165	1 269	△ 104	92
ぶり類	159	182	△ 23	87
ひらめ・かれい類	27	31	△ 4	87
たい類計	103	100	3	103
まだい	62	62	0	100
ちだい・きだい	33	31	2	106
さわら類	36	40	△ 4	90
ふぐ類	13	15	△ 2	87
注) 上記以外の魚類	856	884	△ 28	97
えび類計	29	28	1	104
くるまえび	3	3	0	100
注) 上記以外のえび類	26	25	1	104
かに類計	14	13	1	108
がざみ類	10	10	0	100
その他のかに類	4	3	1	133
貝類計	191	223	△ 32	86
あさり類	102	108	△ 6	94
注) 上記以外の貝類	89	115	△ 26	77
いか類計	368	390	△ 22	94
するめいか	157	159	△ 2	99
あかいか	88	106	△ 18	83
その他のいか類	123	126	△ 3	98
たこ類	35	46	△ 11	76
うに類	17	17	0	100
その他の水産動物類	17	17	0	100
海藻類計	74	51	23	145
その他の海藻類	74	51	23	145

注) 「上記以外の魚類」、「上記以外の貝類」及び「上記以外のえび類」には、その他の魚類、その他の貝類、その他のえび類に加え漁獲量が少ない魚種も含んで計上しています。

### 3 海面養殖業

#### 主な海面養殖業魚種別収獲量

単位：100t

魚種	平. 20	19	対前年差	対前年比(%)
合計	3 232	3 205	27	101
ぶり類	1 038	1 068	△ 30	97
くるまえび	10	10	0	100
わかめ類	22	18	4	122
のり類	1 880	1 827	53	103
上記以外	282	282	0	100

注: のり類については、生換算した重量です。

#### 〔統計表の見方等〕

- 1 統計数値については、表示単位未満を四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがあります。
- 2 表中に用いた記号は以下のとおりです。
  - 「△」は減少したもの
  - 「○」単位に満たないもの

## 【調査の仕様】

### 1 調査の目的

海面漁業生産統計調査は、我が国の海面漁業、海面養殖業の生産に関する実態を明らかにし、水産行政の資料を整備することを目的としています。

### 2 調査の対象

海面漁業生産統計調査のうち、海面漁業漁獲統計調査及び海面養殖業収獲統計調査は、原則、水揚機関を対象とし、水揚機関で把握できない場合に限り、海面漁業経営体を対象としました。

### 3 調査期間

調査期間は、平成20年1月1日～12月31日の1年間です。

なお、遠洋漁業等で年を越えて操業する場合は、陸揚等のために港に入港した日の属する年に含めて調査を行いました。

### 4 調査方法

調査員調査及び往復郵送調査により実施しました。

#### (1) 水揚機関

統計調査員が調査客体に調査票等を配付し自計申告する方法、電子計算機又は紙に出力された記録を閲覧する方法、又は面接聞き取りの方法により実施しました。

#### (2) 漁業経営体

水揚機関で把握できない漁業経営体については、以下の方法で調査を実施しました。

##### ア 一括調査

統計調査員が調査客体に調査票等を配付し自計申告する方法、又は面接聞き取りの方法により実施しました。

##### イ 往復郵送調査

往復郵送調査により実施しました。

### 5 その他

この資料の数値は概数であり、確定値は平成22年刊行予定の『漁業・養殖業生産統計年報』に掲載します。

## 【用語等の解説】

### 1 主な漁業種類の解説

#### (1) 底びき網漁業

底びき網を使用して行う漁業。遠洋底びき網漁業、以西底びき網漁業、沖合底びき網漁業、小型底びき網漁業があります。

#### (2) 船びき網漁業

船を拠点として、船を一定のところに止めて網具を引き寄せるか、又は船を移動させながら網具を引き回して漁獲する漁業です。

#### (3) まき網漁業

魚類等を網具で包囲し、その逃路を断ち次第に包囲形を縮小して、これを採捕する漁業を総称して言います。大中型まき網漁業、中・小型まき網漁業があります。

#### (4) 刺網漁業

刺網を魚類等の遊泳通過するところを遮断するように張り、網目に刺させたり、からませたりして漁獲する漁業を言います。さけ・ます流し網漁業、かじき等流し網漁業等があります。

#### (5) 敷網漁業

漁具を海底に敷いて、集魚灯、まき餌等で魚群をその網上に誘致したり、衝撃音等で魚を網上に集め、網を引き揚げる漁業です。さんま棒受網漁業等があります。

#### (6) 定置網漁業

漁具を固定して行う漁業で、沿岸を回遊する魚類の進路を遮断し、魚群を沖合に誘導し、袋網内に落とし入れて漁獲する漁業です。大型定置網、さけ定置網、小型定置網があります。

#### (7) はえ縄漁業

幹縄に多数の枝縄を付け、この先端に釣針を結着した漁具を横に長く延べて行う釣漁業を言います。まぐろはえ縄等があります。

#### (8) 釣漁業

釣糸と釣針を有する漁具を使用し、餌又は擬餌等により水産動物を誘引し釣針にからませ漁獲する漁業を言います。かつお一本釣漁業、いか釣漁業、ひき縄釣漁業等があります。

### 2 海面漁業部門の解説

#### (1) 遠洋漁業

遠洋底びき網、以西底びき網、大中型遠洋かつお・まぐろ1 そうまき網、遠洋まぐろはえ縄、遠洋かつお一本釣、遠洋いか釣、その他のはえ縄のうち日ロ民間操業に係る漁業、その他の漁業のうち大西洋はえ縄漁業を言います。

#### (2) 沖合漁業

10トン以上の動力漁船を使用する漁業のうち、遠洋漁業及び定置網漁業を除いたものを言います。

#### (3) 沿岸漁業

漁船非使用漁業、無動力船及び10トン未満の動力漁船を使用する漁業並びに定置網漁業を言います。

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局 統計部

生産流通消費統計課

電 話：(代) 096-353-3561 内線 4755

直通電話： 096-353-7576

◎農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局 統計部

統計企画課 企画係

電 話：(代) 096-353-3561 内線 4724

直通電話： 096-353-7554